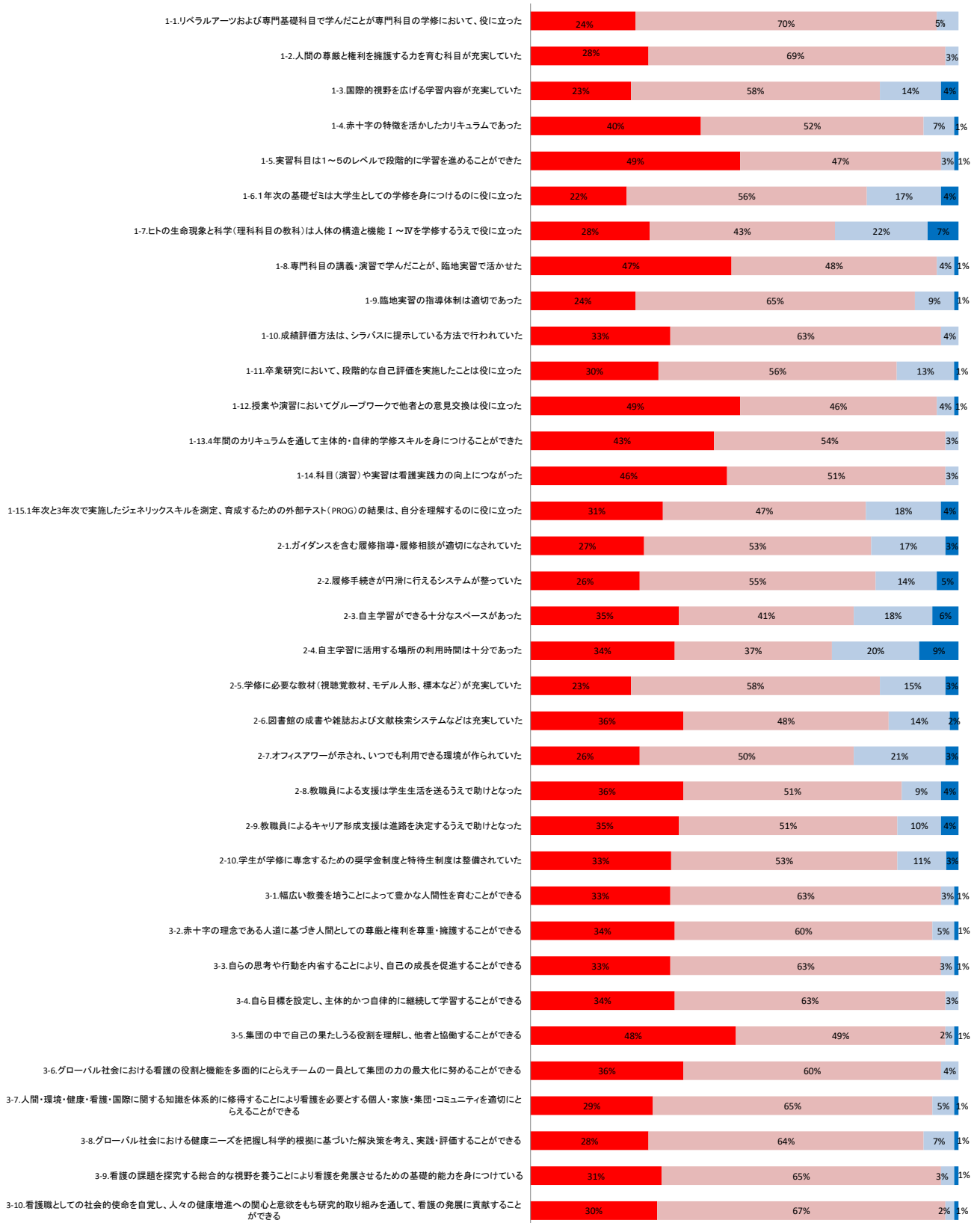


卒業時アンケート結果

n=98 回答率100%
(令和2年3月卒業予定:98名)



■ 非常にあてはまる 身についている
■ だいたいあてはまる だいたい身についている
■ あまりあてはまらない あまり身につけていない
■ あてはまらない 身につけていない
■ 未回答(空欄)

【卒業時アンケート結果の分析結果】（令和2年3月卒業予定：98名）

令和2年度卒業生のアンケートより、「実習科目は1～5の段階的に学習をすすめることができた」「授業や演習においてグループワークで他者との意見交換は役立った」「集団の中で自己の果たしうる役割を理解し、他者と協働することができる」で約半数が「非常にあてはまる」と回答している。

一方、「自主学習に関する場所の利用時間は十分であった」「ヒトの生命現象と科学は人体の構造と機能を学修するうえで役に立った」が1割弱「あてはまらない」と否定的な意見がきかれた。このように、実習科目の段階的な進度の妥当性や授業等でのディスカッションの有用性、実習等を通して他者と協働する力の向上など評価できる点が多かった。

今後は、学生が自主学習ができる場所と利用時間を拡充していく工夫や、理科系科目の内容について検討課題として挙げられた。

令和2年3月アンケート実施・分析
学生支援委員長
(令和2年10月公表)